

平成 27 年度第 4 回伊勢市地方創生有識者会議 議事要録

◆日時 平成 27 年 10 月 13 日（月）19：00～20：45

◆会場 伊勢市役所本庁舎 3 階 委員会室

◆出席委員

山本 誠委員、福村伝史委員、中村基記委員、木村成吾委員、齋藤 平委員、
奥出 協委員、吉川真介委員、勢力 稔委員、本多亮介委員、秋山則子委員、
山川一子委員

◆欠席委員

酒徳雅明委員、田中秀治委員、島田 武委員、松山泰久委員、

◆出席職員

情報戦略局【情報戦略局長、企画調整課企画調整係長、同企画調整係員
情報調査室長、同情報調査係長】

環境生活部【環境生活部長、市民交流課長、市民交流課副参事】

健康福祉部【健康福祉次長、こども課長、健康課長、地域包括ケア推進課長】

危機管理部【危機管理部長】

産業観光部【産業観光部長、産業観光部参事、商工労政課長、同労政係長、
農林水産課長】

都市整備部【都市整備部長、都市計画課長、建築住宅課長、
交通政策課交通システム係長】

教育委員会【教育部長、学校教育課副参事】

◆内容

(1) 進行の確認

(2) 資料説明（参考資料、資料 1、資料 2、資料 3）

■伊勢市人口ビジョン（案）について（情報調査室からの説明）

■まち・ひと・しごと総合戦略中間案②について（事務局からの説明）

・資料 1 地方創生有識者会議主な意見集約表

・資料 2 総合戦略中間案②

・資料 3 「伊勢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（中間案）」における
パブリックコメント結果概要について

(3) 意見交換

◇会議録（要録）

以下の要録は、事務局により要旨を編集したものです。微妙なニュアンス等が表現されておきませんので、ご了承ください。

- 人口ビジョンについては、詳しく調べ、良いモノができたと思う。
- 人口ビジョンの第5章「現状分析から見る課題と市の潜在する可能性」は、非常に大事である。24,000人の減少を食い止めるための総合戦略といっても過言ではない。事務局は、どの事業を達成できれば、目標の何割を達成できるかという目論見はあるのか教えてほしい。人口の自然増減用の事業と社会増減用の事業があると思う。
- 総合戦略の基本目標を達成すれば、少なくとも人口の自然増減と社会増減は良い方向になる。基本目標の達成に結びつく事業を遂行しなければならない。
- 5年後には、学校数が減少し、様々な外部要因も増え、取り組むべき手段も変わってくると思う。中間評価し、進めてほしい。
- 基本目標を前回の有識者会議を受けて、変更したことは評価する【安定した雇用を創出する 目標「製造品出荷額」→「製造業従事者数」】。今後、目標数値の変動を見ながら、何が原因で目標をクリアしたか、またクリアできなかった場合は、何が要因であったか検証してほしい。学校数の減少の話が出たが、農業においても目の前にTPPといった外部要因がある。中間評価は非常に大事である。
- 伊勢志摩で出会いの促進のための集まりが毎年開かれている。多少でも結婚の実績があったと聞く。若者の集まる場所の提供が大事。
- H25の遷宮までは、観光客1000万人が目標であった。今まではそれで良かったが、これからは、同じような目標でいいのかと思う。外宮がある程度増えてきた中で、その中身を具体的にした方が良いと思う。伊勢市の観光客は、外宮と内宮の参拝者数の合計。今までより両宮を参拝するようになったのも増えた大きな要因であったことを認識しなければならない。
- 合計特殊出生率（目標2.1）は大変な数字である。育児参加、子育て支援をしっかりとりにしてほしい。
- オランダではワークライフバランスに取り組む企業へは支援をしている。すごくお金がいることであるが、国は本気なのかと思う。
- つくば市が移住しやすいまちであると雑誌で見た。都心へのアクセスはいいのはもちろん、教育水準が高い。教育環境の整備は必要である。また、あるPTAの会議で、子どもを地域にとどまらせる大きな要因は「まつり」と話があった。「まつり」がある地域は下の名前でもみんな呼び合い、結束も高い。郷土愛の授業もしてほしい。

○今後のスケジュールについて

10月末の策定に向け、10月中に、庁内決定をし、議会へ報告する予定である。

また、先ほど中間評価の重要性について意見をいただいたが、事務局としても進行管理の必要性を認識しており、この有識者会議の委員の皆様をお願いしたいと考えている。今回の委嘱は、総合戦略の策定までであるため、改めて、各委員の組織等に依頼をする予定である。また、年度内に進行管理の会議を開きたいと考えている。